

企業名：日本道路株式会社

レポート名：統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

日本道路グループは、「CSR 経営を推進することによって、社会から信頼され、存続を望まれる企業となるとともに、持続可能な社会づくりに貢献する」ことを経営理念に、企業が果たすべき社会的責任を E（環境）S（社会）G（ガバナンス）の視点で見据えた長期的な事業の継続と、同時に SDGs の達成に取り組んでいる。技術力で「道づくり」「街づくり」に貢献する SDGs 企業を目指すと明言されており、その実現のための具体的な取り組みとして ESG についての説明も具体的にされていることから、日本道路が目指す姿は非常によく伝わるようになっているといえる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

この会社には、道路整備事業以外にも不動産事業など多角的に事業展開しているという特徴がある。さらに、創業 90 年以上の歴史から、国家的プロジェクトに参加してきたことなど多くの実績があり、高い技術力を誇っている。しかしながら、報告書においてこれらの優位性は大々的にアピールされておらず、競争優位性を理解するためには、報告書全体を読み込むことと、同業他社の報告書を読んで比べることが必要となる。これに加えて、日本道路は他社に比べて特に SDGs の目標達成に力を入れていることが読み取れるが、他社もこのような問題を重視し、取り組んでいるため、他社に勝る部分を示す必要がある。この会社の競争優位性は、一般の人々が報告書を読んだだけでは理解しづらいと考えられる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

事業の多様性について、統合報告書には説明がなされておらず、その持続性を判断するのは難しい。技術力に関しては、SDGs の目標達成のための手段として語られているような印象が強く、現在持っている技術に持続性はあると考えられる一歩で、新たな技術の開発については判断しがたい。さらに、技術力や SDGs への取り組みは他の企業も力を入れていることであり、これらの優位性を維持していくためには他の企業を凌ぐ速さ、質での発展が求められる。報告書を読むだけでは、他社にどのような観点から差をつけることができるのか、理解することは難しい。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

日本道路は、機械による施工、現代の AI や ICT 施工が活用される建設現場において、技術を最大限に生かすためには人の力が不可欠であるということを理解していて、優れた人材の育成に長期的な視点で注力し、環境づくりにも力を入れている。様々な分野で、社会の

変化に対応し、あらゆるステークホルダーのニーズや社会の課題を見いだして解決することができる人材の育成を行っている。

全国 7 カ所の技術センターが若手教育の軸を担っていて、現場と技術センター双方からのフォローにより、新入社員のスキルアップやモチベーションアップにつながっているとされていて、充実した現場内訓練（OJT）教育が行われているといえる。さらに、入社3・5・7年目における年次別の研修も行っており、キャリアパスに対応した学びが可能である。それに加えて、通信教育支援や資格取得奨励金制度などの支援も充実していて、自身の人的資本の価値向上は十分達成可能であると考えられる。

日本道路グループは、ダイバーシティの推進にも取り組んでおり、障がい者や高齢者、外国人など多様な属性を持つ人材を活用していることから、自信の見識を広げることも可能であるだろう。

女性活躍推進の取り組みも充実していて、定期的に「女性技術者意見交換会」が実施され、女性の視点や発想を施策や社内制度に反映している。さらに、育児短時間勤務の対象者拡大を行うなど、様々なライフイベントを迎えても安心して働き続けられる環境整備に取り組んでいて、女性である私自身も、価値向上を達成できる機会が十分に確保されているといえる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

日本道路株式会社の統合報告書は、全体的に SDGs への取り組みを軸にして書かれていて、特に力を入れていることが非常によく伝わる。しかしながら、少々注力しすぎているようにも見受けられ、事業の多様性や高い技術力など、その他にもアピールすべきところが軽く扱われてしまっているように感じられる。SDGs への取り組みを強調しつつ、他の重要な点に関してはそちらに焦点を当てて示すべきである。これに加えて、競争優位性もわかりにくいため、目指す会社像と同様に、大々的に明言すべきである。これらの変化を加えることによって、読み手に理解されやすくなり、他社に勝る部分をよりアピールすることができるようになるだろう。